

がん治療の今

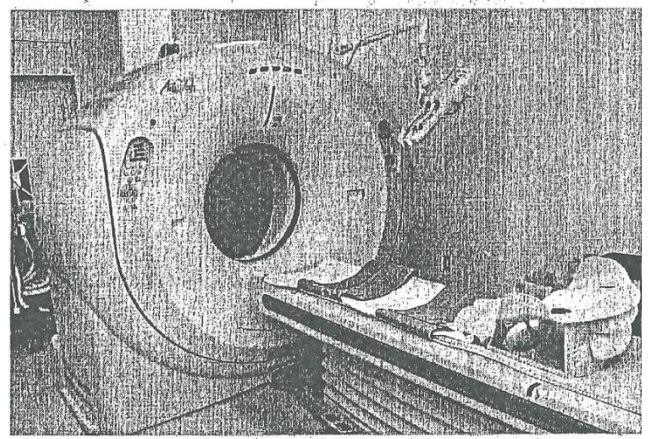
21

50歳代後半以降

腎臓は、背骨の両側の腰の高さの所に、左右一対ずつあります。血液を濾過して尿をつくることで、尿とともに、血液中の不要な成分を排泄する機能があり、尿はその後、腎臓の中央部にある腎盂に集まり、尿管を通じて膀胱に送られます。

腎がん

早期発見なら根治可能



腎がんの診断に威力を発揮する「ヘリカルCT」
—製鉄記念室蘭病院

針生検査は腎がんの場合、がん細胞をまき散らす可能性があるので、通常は行われません。

腹部超音波検査

病期Ⅰは、腫瘍ができた部分だけを切除する、腎部分切除という手術が標準治療です。ただ、部分切除が難しい部位にできたがんや高齢者は腎臓を片方丸ごと取り除く根治的腎摘除術を行います。

これらの術式は、条件が整えば、腹腔鏡下での手術が可能です。腹腔鏡下手術は、従来の開放手術に比べて傷が小さく、症状のうちに、検診や他の病気の検査などで偶然見つかるケースが大半を占めます。

多くの腎がんは、発育が緩徐なことから、無治療経過観察といつて、手術をしないで様子を見る選択肢もあります。特に、ごく小径の腎がんや高齢者、持病のある患者さんには、積極的に無治療経過観察を勧める場合があります。

腎がんは、無症状のうちで早期発見できれば根治が可能です。55歳以上の方は、年一回の検診や人間ドックで腹部超音波検査を受けることをお勧めします。



たちき・ひとし 1986年(昭和61年)札幌医科大学博士。泌尿器科学会専門医・指導医。泌尿器腹腔鏡技術認定医。54歳。

腎がんは、腎臓の實質部分から発生した「腎細胞がん」とも呼ばれます。これとは別に、腎盂の尿路上皮から発生した「腎盂がん」と呼ばれる種類もあり、腎細胞がんとは性質も治療法も全く異なります。

製鉄記念室蘭病院・立木仁泌尿器科長